

水 泳 競 技 実 施 要 領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則「（公財）日本パラスポーツ協会制定」及び本大会の申し合わせ事項による。

2 招 集

- (1) 招集所は会場内で行うので競技役員（審判員）の指示に従う。
- (2) 招集は、競技開始時刻の20分前に完了する。
- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権したものとみなし、出場できない。
また、競技の進行状況によっては、競技開始時刻が早くなることがあるので競技進行状況を把握し招集に遅れることがないように注意すること。
- (4) 棄権する場合は、招集所に棄権届けを提出すること。
- (5) 障害区分23の競技者が装着する光を通さないゴーグルは、招集所において競技役員が光の漏れがないか確認する。確認後はプールへ入場するまでに装着し、競技終了まで外してはならない。

3 競技方法

- (1) スタート
スタートの合図はイングリッシュコール「Take your marks:テイク・ユア・マークス」（意味：用意）の合図を使用する。
- (2) スタートにおけるスタート台の使用については、プールの水深との関連を鑑み、注意をしながら使用すること。（公財）日本水泳連盟による「プール水深とスタート台の高さに関するガイドライン」の内容を留意し、競技を行うこと。
- (3) 水中スタート
規則上、水中スタートをしなくてはならない障がい区分以外の全ての競技者は、台上・台横・水中スタートを選択することができる。
- (4) スタート介助
身体的理由により壁をつかむことができず、かつ、身体の一部を壁につけることができない場合には、スタートの合図がなされるまで足をプールの壁につけて保持してもらってもよい。ただし、スタートの際に競技者を支えている者は競技者に勢いを与えてはいけない。
- (5) 補助
視覚障がい者、下肢障がい者等でプールの出入りなどに補助を要する人には補助員を配置する。
視覚障がい者（視力0から0.01までの者及び同等の障がい者が重複する者）のゴールやターンの合図は、競技役員または許可された者が安全な棒などを使って身体をたたいたり、声を出して壁面の位置を教えてもよい。
- (6) 誘導
競技場内での誘導は競技役員（審判員）の指示に従うこと。
- (7) 計時
計時は自動審判計時装置（タッチ板）を使用する。
- (8) ウォーミングアップ
ウォーミングアップを行う場合は、競技運営に支障のない時間帯に審判長の指示に従って行うこと。
- (9) 障害区分23の競技者は、競技中に光を通さないゴーグルを装着し競技終了まで外してはならない。ゴーグルを外すことができるのは、審判または競技役員が認めたときだけであり、いかなる理由があっても意図的にゴーグルを外してはならない。ただし、飛び込みの際などに、故意によらずゴーグルが外れた場合は、その限りではない。

4 競技の服装

- (1) キャップを着用する。
- (2) 水着は、F I N Aの公認した水着を着用すること。ただし、身体的理由によりF I N Aの公認した水着の着用が不可能な場合は、競技開始までに申請書を提出し、審判長の許可を得ること。

5 I Dカード

ナンバーカードの代替えとして、主催者が用意したI Dカードを常に携帯する。

6 表 彰

出場者全員に記録証を授与する。

7 その他

- (1) 会場内では、競技役員の指示に従い事故防止に十分注意すること。
- (2) 会場内での写真・ビデオ等撮影は、主催者の許可を得た者以外は撮影できない。
- (3) 競技場内へは、大会役員、競技役員、競技補助員等、大会競技役員関係者及び競技者、許可された介助者、報道関係者以外は立ち入ることができない。